

【八千代町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）では、ICTの活用と児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすという観点から「個別最適な学び」と学校ならではの児童生徒同士の学び合いや多様な他者と協働して主体的に課題を解決する「協働的な学び」の姿を実現することを目指している。

八千代町では、教育大綱にて「将来の予測が難しい社会の中で子どもたちが情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と協同し、新たな価値の創造に挑んでいくといった『情報活用能力』を育成すること」、また「情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくこと」が重要とし「全ての子どもたちが超スマートな社会を主体的に生きる力を育むために、各教科等のねらいに応じて、学習活動の中にICTを効果的に活用する場面を取り入れ、子どもたちの情報活用能力の向上を図っていく」としている。

上記の目指す学びの姿を、1人1台端末の積極的な活用、ICT環境を活かした授業を展開することで実現していく。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備については、令和2年度に1,686台を整備し、整備率100%を実現した。ネットワークの整備については、令和2年度に町内全小中学校で実施し、GIGAスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備した。その他、ICT支援員による教職員へのサポート体制の構築、中学校では普通教室における電子黒板の導入を実施し、ICT環境の整備に努めた。

授業における1人1台端末の活用として、学習支援ソフト・ロイロノートを利用することで児童生徒同士の学び合いや協働による学ぶ力の向上を図った。また、オンライン

英会話レッスンを導入し、児童生徒が外国人講師と対面で英会話を学べる、ICT環境を活かした学習環境の整備に努めた。

児童生徒への支援として、学習支援ソフト・ロイロノートを活用し、児童生徒の心身の状態を把握する「心の健康観察」を実施し、また、不登校や様々な理由により欠席となっている児童生徒には授業内容を共有する等、生活・学習支援を行った。

授業での活用における課題として、学校・教職員により端末や学習支援ソフトの操作方法の習熟度に差があるため、授業での活用においても活用頻度や活用内容にも差が見られる状況である。また、環境における課題として、学校・教室によって差が生じている校内通信ネットワーク環境の強化・安定化が挙げられる。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下のように利活用していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

授業での積極的活用を進めるため、教職員向けの研修や情報担当教職員内での情報共有の場を作り、各学校の端末活用に関する課題を解決できるよう環境を整える。また、授業での安定的な活用を実現するため、校内通信ネットワーク環境について、令和7年度にネットワークアセスメントを実施し、その結果を令和8年度の校内通信ネットワーク機器更新において反映させる。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

授業支援ソフト・ロイロノートを引き続き活用した授業に加え、町内学校毎に導入しているデジタルドリルやデジタル教科書を活用することで、個別最適・協働的な学びを充実させる。

(3) 学びの保障

「誰一人取り残さない学びの保障」に向け、まずは端末を通じた「心の健康観察」に引き続き取り組み、児童生徒の心身の変化を注視していく。そして、不登校や様々な理由により欠席となっている児童生徒には、ロイロノートを活用した生活・学習支援や希望に応じて授業や学校行事のオンライン配信等を行っていく。また年々増加している外国人児童生徒への支援など、多様な場面でICTを活用していく。